

学校教育目標	湖畔に輝ける子ら
--------	----------

子供と教師が 目指す子供像	(知) 主体的に学び共に高め合う (徳) 自分らしく輝く～湖畔にきらめくさざ波 のように一人一人がそれぞれ輝く～ (体) 健やかな心・体をつくる	めざす子供像	自分らしさを輝かせながら様々な場面で主体的に取り 組む子
------------------	---	--------	---------------------------------

めざす子供像を実現するための 今年度の経営の重点	<p>自分事として学び、社会や未来につなげる</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子供と教師による学びの意味・価値の共有 ○振り返りのタイミングと活動へのフィードバック ○学びを生かす家庭学習の充実 <p>対話を通して学びを深める</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全学年に共通した授業展開を基盤にした、柔軟な授業展開の追求 ○ペア学習・全体交流での対話的な学び、コミュニケーション力の育成 ○協働的な学びやICTの活用を生かした授業改善 <p>自分を見つめ、自信をもってやりぬく</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自己を振り返る「自分を見つめる日」の実施 ○目標を細かな段階に分け「見える化」し、ポジティブな行動支援を機能させる ○PDCAサイクルで成長を促す明日葉カード・行事の設定 <p>友達とともに輝く</p> <ul style="list-style-type: none"> ○友達のよさを見付ける「輝きを見付ける日」の実施 ○企画力を育む縦割り班・全校活動への参画体験 ○多くの友達と関わる異学年との交流活動の実施 <p>規則正しい生活習慣を築く</p> <ul style="list-style-type: none"> ○すこやかチェックの実施 ○心や体への影響を学ぶ「メディアの日」の実施（年間5回） <p>進んで運動し、体力を高める</p> <ul style="list-style-type: none"> ○スポーツフェスティバルの実施 ○基礎体力が高まるサーキットトレーニングの実施 ○スモールステップによる達成感の向上
-----------------------------	--

【キャリア教育の全体目標】			
〈育成すべき基礎的・汎用的能力〉			
かかわる力 (人間形成・社会形成能力)	自分を知る力 (自己理解・自己管理能力)	考える力 (課題対応能力)	つなぐ力 (キャリアプランニング能力)

児童評価 A…85%以上 B…70%以上 C…50%以上 D…35%以上					
評価項目	あてはまる かなりあて はまる	自己 評価	評価項目	あてはまる かなりあて はまる	自己 評価
今まで学習したことや経験したことを使ったり、友達と相談したりして、自分で考えようとしている。	89%	A	代表委員会で意見を言ったり、縦割り遊びや全校遊びに進んで取り組んだりしている。	93%	A
自分の考えと比べて友達の発表を聞き、友達の意見につなげて自分の考えを発表しようとしている。	89%	A	自分の生活をよりよくしようと、生活を見直したり、明日葉カードの目標にして粘り強く取り組んだりしている。	89%	A
自分の考えをよりよくするために友達と意見交流を進んで行おうとしている。	89%	A	学校の先生は、できること・得意なことが増えるように励ましたり、頑張ったことやよい行いを認めたりしてくれる。	96%	A
学習で「できるようになったこと」「分かったこと」や、学習で楽しみにしていることなどを、発表したり、ノートやタブレットの振り返りシートに書いたりしている。	93%	A	家の人は、できること・得意なことが増えるように励ましたり、頑張ったことやよい行いを認めたりしてくれる。	96%	A
「生活科」や「総合的な学習の時間」では、身近なことや地域のことを自分の学びに生かそうとしている。	89%	A	挨拶のめあてを意識して、自分から進んで挨拶している。	96%	A
タブレットパソコンを活用して学習する際に、自分の考えを生かしたり深めたりしている。	96%	A	学校では、自分らしく、元気に生活している。	92%	A
学校の先生は、みんながタブレットパソコンを活用できるように授業で使う場面を多く取り入れてくれている。	96%	A	朝・昼休みや体育の授業、チャレンジ運動では、体を動かすことを楽しんだり、自分の目標をもって運動したりしている。	96%	A
学校の先生は、自分で考えたり話し合ったりできるように、具体物や体験活動を取り入れたり、生活に生かせるような課題を取り上げたりするなど、授業の内容を考えてくれている。	100%	A	毎日、早ね・早起きをしたり、朝ごはんを欠かさず食べたりしている。	92%	A
家の人は、自分(子供)の学習に関心をもち、進んで学習に取り組むことができるように、声掛けをしたり、宿題に取り組む様子や内容等を見たりしてくれている。	96%	A	メディアについての約束を守って生活している。	89%	A
自分や友達のよいところや頑張っていることを見付け、自分らしさの花やきらっとカードに書いたり発表したりしている。	89%	A	学校の先生は、いじめがないように、話を聞いてくれたり、助けてくれたりする。	96%	A
学習や遊びなどの場で、進んで同じ学年や違う学年の友達と関わっている。	82%	B	午前中4時間・午後2時間授業するより、午前中5時間・午後1時間の方がよい。	78%	B

保護者評価 A…85%以上 B…70%以上 C…50%以上 D…35%以上					
評価項目	あてはまる かなりあて はまる	自己 評価	評価項目	あてはまる かなりあて はまる	自己 評価
お子さんは、今まで学習したことや経験したことを使ったり、友達と相談したりして、自分で考えようとしている。	96%	A	教職員は、子供たちができること・得意なことを増やし、自分のよさを見付けられるように、励まし支援している。また、よいところを認めている。	100%	A
お子さんは、自分の考えと比べて友達の発表を聞き、友達の意見につなげて自分の考えを発表しようとしている。	85%	A	家庭では、お子さんができること・得意なことを増やし、自分のよさを見付けられるように、励まし支援している。また、よいところを認めている。	100%	A
お子さんは、自分の考えをよりよくするために友達と意見交流を進んで行おうとしている。	81%	B	お子さんは、自分から進んで挨拶している。	88%	A
お子さんは、学習して「分かったこと」「できるようになったこと」や、学習で楽しみにしていることなどを、家庭で話している。	88%	A	お子さんは、自分らしく元気に学校生活を送っている。	92%	A
お子さんは、「生活科」や「総合的な学習の時間」では、身近なことや地域のことを自分の学びに生かそうとしている。	96%	A	お子さんは、体を動かすことを楽しみ、目標をもって運動に取り組んでいる。	92%	A
お子さんは、タブレットパソコンを活用した学習で自分の考えを生かしたり、深めたりしている。	92%	A	家庭では、早ね・早起きを呼び掛けたり、朝食を食べさせたりしている。	96%	A
教職員は、子供たちがタブレットを活用できるような授業を意図的に組んでいる。	100%	A	家庭では、メディアについての約束事を決め、守らせている。	88%	A
教職員は、子供たちが自分事として学習に取り組むことができるように、具体物や体験活動を取り入れたり、生活場面を意識した課題を設定したりするなど、授業を工夫している。	96%	B	教職員は、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に取り組んでいる。	88%	A
家庭では、お子さんの学習に関心をもち、家庭学習が自ら学ぶ学習になるように、助言したり、宿題に取り組む様子・内容等を見届けたりしている。	96%	A	学校は、お子さんのことについて相談がしやすい。	100%	A
お子さんは、自分や友達のよいところや頑張っていることを、家庭で話している。	80%	B	家庭では、便りやホームページ、その他の方法で、学校の情報を得ることができている。	100%	A
お子さんは、学習や遊びなどの場で、進んで同じ学年や違う学年の友達と関わろうとしている。	80%	B	学校は、子供たちの安全確保のための取組を十分行っている。	100%	A
お子さんは、代表委員会や縦割り遊び、全校遊びに進んで取り組んでいることを、家庭で話している。	85%	A	学校は、午前中5時間授業のよさを生かして、教育活動を行っている。	100%	A
お子さんは、自分の生活をよりよくしようと、生活を見直したり、目標に向かって粘り強く取り組んだりしている。	80%	B			

教職員評価
<ul style="list-style-type: none"> ・学習において自分の考えをもち、発表しようとしているが、友達の意見につなげ、自分の考えを深めるまでには至っていない。 ・「生活科」や「総合的な学習の時間」には、地域の豊富な素材を生かして課題を設定して活動することができている。 ・タブレットを活用して学習に生かそうと努力する児童が多く、情報活用能力の向上が見られる。 ・「きらっとカード」を使って友達のよさや頑張っていることを見付け称揚したり、学習や遊びなどの場で進んで友達と関わったりしている。 ・友達と接する中でどのように行動すればよいか分からなかったり、友達との会話で言葉が足りなかったりして友達とトラブルになることがある。 ・「にしきがっ子ミーティング」では、異学年の児童と話し合う経験を多くもつことができ、話し合いの結果を基に企画・運営する姿が見られる。 ・行事において適度な負荷をかけるようにしたところ、多くの児童がそれを乗り越えようと努力しているが、避けたりあきらめたりする児童もいる。 ・職員は、「いじめ防止基本方針」に基づき、生徒指導を中心に職員間で情報を共有したり、児童との会話を頻繁に行ったりして、いじめの未然防止や早期発見に努めている。

自己評価の考察
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを発表しているが、友達の意見につなげられていないと感じている児童がいるので、「思考ツール」を活用したり、「西気賀クエスト」を意識したりしながら、話し合いを深める努力をしていきたい。 ・豊富な地域素材を学びに生かしているため、「生活科」や「総合的な学習の時間」における活動を今後も継続していきたい。 ・タブレットを活用した児童主体の授業や「思考ツール」を使った話し合いなど、研修で効果的な活用方法を学び実践することを継続していきたい。 ・毎月「きらっとカード」を使う活動では、友達のよさを見付けたり、自分のよさを友達に認めてもらったりした。また、「自分らしさの花」づくりの活動では、自分の頑張りを認める機会にした。まだ自分や友達のよさに気付けない児童もいるので、教師側からの働きかけを行うようにしていきたい。 ・自分のことを知ったり他者と調和して関係性を築いたりするために、非認知能力を伸ばす活動は効果的であったと考えられるので継続していきたい。 ・企画力を育てる活動も異なる考え方や立場をもつ子供が話し合う活動は、すぐに身に付くものではないので継続的な取り組みが必要である。 ・自分に自信がもてるようにある程度負荷を掛け、それを乗り越える経験は必要であるので、今後も継続していきたい。 ・いじめ防止の取り組みは、多くの児童・保護者共に高い評価を得た。これは、学校として一つ一つの出来事に丁寧に対応してきた成果であると考えられる。今後も全員が安心して学校生活を送ることができるように、一人一人を大切に、寄り添いながら対応していくようにする。

学校関係者評価の結果（令和8年1月31日 第4回学校運営協議会）
<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営目標「主体性が育まれる学校づくり」が、学校だけでなく、地域とともに進められてきたことがよく分かった。更に「仲間と共に高め合う」教育を期待したい。 ・これまでの教育の継続は、必須だと思う。しかし現在の世の中は、自分本位で他人への思いやりが欠けていると思う。「思いやりのある教育」という項目も入れられればと考える。 ・本校の特色である「和船活動」を通して、目標に近づきたいと思う。 ・児童と教員が、いじめや何か困ったときに相談がしやすい関係づくりができていると感じられた。いじめ対策の学校の取り組みは、今後も継続してほしい。

次年度に向けての改善方策
<ul style="list-style-type: none"> ・参画体験を増やし、主体性を伸ばすため、企画力を育てる活動や異なる考え方や立場をもつ子供が話し合う活動を来年度も継続する。 ・本校の特色ある活動を生かし、ある程度負荷を掛けながら子供たちができないことを自分の力で乗り越えられるよう支え、自己肯定感を育てていく。 ・子供たちの成長に必要な非認知能力を伸ばすための活動（認知トレーニング）を継続し、自己肯定感や他者理解を育て、道徳性・協働性を高めたい。 ・日々の関わりや定期的に行ういじめアンケート、面談などを通し、児童との関係性を深め、児童に寄り添う指導を継続することで、今後もいじめ等の未然防止、早期発見、早期対応に努めていきたい。